

鹿児島流

# 熱いハートの医師 育てます



仙巖園の菊まつり（鹿児島市） 写真協力：鹿児島市

## 私の臨床研修医時代

鹿児島大学病院  
総合臨床研修センター  
副センター長

でぐち  
出口

たかひさ  
尚寿

出身校 鹿児島大学

卒後即入局ストレート研修が主流だった平成3年、旧第三内科の納光弘教授が掲げた“臨床真っ黒焦げコース”一期生として入局した私は、大学病院研修中に同期の理解を得て沖縄県立中部病院のハワイ大学研修プログラムを受験し沖縄に渡りました。病院地下の狭い2人部屋が新住所となり、病棟では常時10名以上の患者を受け持ち、指導医と毎日朝夕2回の回診、週2回救急当直（準夜or深夜）がdutyでした。一次～三次まで断らない救急では、超夜型ウチナンチュのコンビニ受診と全科の救急車に対応し、翌日は通常業務。働き方改革とは真逆の体育会系研修でした。当時としては珍しかったスーパーローテート研修にNHKが注目し、私は1週間密着取材を受けNHKスペシャル（平成5年9月放送）に出演するという貴重な経験もしました。全国から集まった同期の医師とともに、熱いスタッフ・指導医から徹底的に患者を診て患者から学ぶ姿勢と“主治医感”をたたき込まれた熱い沖縄の日々は、私の医師人生の熱い強烈なプロローグでした。



◀現在



研修医時代▶

出身地 志布志市

## 指導医の思い出



出身地 鹿児島市

ひご けんじゅうろう  
肥後 建樹郎

出身校 長崎県立長崎南高等学校▶鹿児島大学

勤務先▶今村総合病院

大学病院での研修医の頃、17歳の男性が心筋炎による3枝ブロックの診断で他院から転院搬送されました。入院当日の朝、「一睡も出来なかった」と、沢山の資料を手に、命を背負う覚悟で登院した私の指導医は、入院後のモニター心電図を丹念に確認し続けて、たった一発だけ出現した期外収縮の波形を契機に、この患者が心筋炎ではなく特異性心室頻拍の持続状態である事を突き止めたのです。数ヶ月要しましたが、患者さんは無事に退院しました。その間、私は心臓血管内科での研修延長を願い出て、毎日患者さんの心エコーを行い、状態把握に努めました。指導医達の真剣勝負に触発され、私自身も、二年間の研修に真摯に向き合えたと思います。その中で、自然に自分自身の道も開けたと思います。皆様が、ひとつひとつの症例に真摯に向き合い、より良い研修と、悔いのない進路選択がされますよう心より応援しております。



出身地 鹿児島市

おおつか ひろふみ  
大塚 博文

出身校 鶴丸高校▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島市医師会病院

私が鹿児島大学産婦人科へ入局したのは昭和61年6月です。7年先輩の先生のもとで医師の人生が始まりました。いつも金魚の糞のようにその指導医の後についてゆき、注射の手技をはじめとし、血液検査の仕方、手術の際の糸結び、ペアン、コッヘルの使い方、診察の仕方、患者さんとの接し方など教わりました。ご自身の仕事も多く余裕もなかったはずですが、ご自身の外勤先まで連れて行っていただき、分娩進行の状態をみる内診等教えていただきました。常に探究心を持っておられ、驚いたことにご自身で超音波検査の機械を購入され、それを使って研究されていました。時にご自身の研究内容について熱く語ってくださいました。日常の業務に追われる毎日でなかなかできませんが、常に自分なりに疑問点をみつけそれを追求することの姿勢の大切さも教わりました。



出身地 鹿児島市

えぐち だいき  
江口 大樹

出身校 ラ・サール高校▶九州大学

勤務先▶米盛病院

「今日は黒ちゃんがいるからER大丈夫やね」ER看護師が「黒ちゃん」と気易く呼ぶ黒田久志先生が私の研修医時代の恩師です。

大学卒業後、外科医局に入局した私は、まだストレート研修でも良い時代でしたが、忙しい病院で沢山の救急疾患を経験したいという思いで久留米の救急病院で初期研修を過ごしました。

1日30台以上の救急車がくる野戦病院では、新米医師の私に手取り足取り教えてくれる先生は皆無でしたが、黒田先生は背中でも多くのことを教えてくださいました。ホットラインの取り方、人生初の手術、手術記録の書き方、末期癌患者さんとの接し方、家族対応、他職種とのコミュニケーションなどを目の当たりにして今の私があります。

講義が多いとか、人形で練習する環境を求めるだけではなく、ロールモデルとなる先生を見つけて、その言動をつぶさに観察することで得られることを大事にしてもらいたいと思います。



出身地 和泊町(沖永良部島)

あさと ゆうじ  
朝戸 裕二

出身校 熊本マリスト学園▶宮崎医科大学(現宮崎大学医学部)

勤務先▶大隅鹿屋病院

早く手術手技を覚えるには大学ではなく市中の研修病院の方が良いだろうと考え、当時では希な進路でしたが昭和61年に宮崎医科大学を卒業し、三井記念病院の外科レジデントとなりました。三井で過ごした約4年半のレジデント生活はとにかくハードでした。6時半からチーム回診、7時半からカンファレンス、8時45分からは手術、夕方手術が終わると受け持ち患者の回診、その後標本整理、カルテ記載や手術記載を終えるころには翌日になっているという日もざらでした。歩いて5分くらいのところに住んでいましたが、帰るのが億劫で外来診察室のベットで眠ることもよくありました。当時の三井は外科全般を研修するというカリキュラムで心臓外科6ヶ月、呼吸器外科3ヶ月、麻酔科3ヶ月、外の一般病院3ヶ月、後は一般消化器外科という内容で心臓外科では心房中隔欠損症の術者も数例やらせてもらいました。外科医32年目ですが三井での研修が今の私の基礎を作っています。研修時代をどの様に過ごすかが、その後の医師人生を決めるといっても過言ではないことを研修医の皆さんは肝に銘じて頑張してほしいものです。

# 研修医の声



えいぶく かずき  
**榮福 和希**

出身校 都城泉ヶ丘高校▶鹿児島大学

研修先▶いまきいれ総合病院

私がいまきいれ総合病院に決めた理由は、診療科が充実しており、研修のほとんどをいまきいれ総合病院で完結できるからです。研修医生活は1〜2ヶ月ごとに研修する診療科が変わっていき、環境の変化に対応するのが想像以上に大変です。同じ病院で研修することができれば、診療科が変わっても他科の上級医の先生に質問がしやすいですし、カルテなど病院システムにも慣れていきます。そのような点からは研修に集中しやすい環境で充実した生活を送ることができています。また、他職種の方ともコミュニケーションを取りやすく、働きやすいだけでなく、他職種の視点や知識も教えていただくことができます。

私は外科系、特に形成外科と耳鼻咽喉科に興味があります。いまきいれ総合病院には鹿児島でも数少ない形成外科があり、その点もおすすめのポイントです。研修医の皆さんも是非私たちと一緒に研修しませんか。

出身地 宮崎県



おくむら こうへい  
**奥村 浩平**

出身校 志學館高校▶鹿児島大学

研修先▶鹿児島県立病院群（県立大島病院）

県立大島病院で初期研修をはじめ約半年が経ちました。まだまだわからないことだらけで毎日過ごしていますが、先生や他職種の方、2年目研修医の先生などいろいろな人の助言、指導のおかげでなんとか働くことができています。さらに、同期にも恵まれ、職場では患者さんについてディスカッションをしたりして互いに高め合い、休日は奄美の恵まれた自然を共に満喫しリフレッシュしたりと充実した日々を過ごすことができています。県立大島病院は離島医療の中心としての役割を持っており、本土の病院とは違った研修を経験できることが大きな特徴です。可能な限り奄美群島内で医療を完結することを目指しており、commonな疾患から重症な症例まで幅広い疾患を経験することができています。これからも鹿児島の地域医療に役立てるよう日々の研修生活に励んでいきたいと思っています。

出身地 鹿児島市



いむら ゆうた  
**今村 優太**

出身校 ラ・サール高校▶関西医科大学

研修先▶鹿児島市立病院

研修医生活が始まり、現在半年が経とうとしています。最初は右も左も分からない状態でしたが、指導してくださる先生方、何でも相談のってくださる研修2年目の先輩方、切磋琢磨できる同期たちに囲まれて少しずつ仕事のリズムを掴み始めることができ、充実した研修医生活を送ることができています。配属した診療科ごとで積極的に治療や検査に参加させていただき、同時に自分の医学知識の無さを痛感し、これからは勉強し続けなければならないと改めて感じています。救急当直では急患の初期対応を通して問診や診察の仕方、様々な疾患の症状や治療を学ぶことができています。回数を重ねるごとに自分にできることが少しずつ増えていき医師として成長できていることを直に感じるため、忙しいながらも楽しさもあります。これからもより多くのことを経験し、良い医師になれるよう日々研鑽していきたいと思っています。

出身地 鹿児島市



てらぞの いっせい  
**寺園 逸正**

出身校 樟南高校▶鹿児島大学

研修先▶霧島市立医師会医療センター

研修医として働き始めて約半年が経ちました。何もかもが初めてのことで、上手くいかないことも多々ありますが、多くの方々に見守られながら、日々新しいことに挑戦させてもらっています。

霧島医療センターでは、指導医だけでなく病院全体として研修医を育ててくれる雰囲気があります。手技がある時は、指導医以外の先生も声をかけてくれ、また様々な診療科の指導医や他職種の方が研修医のために講義をしてくれます。

さらに臨床検査技師の方からも丁寧なエコーの指導も受けられ、看護師の実習に研修医も参加させてもらって、学べる環境が多くあります。

このように霧島医療センターの職員の方々に見守られながら充実した研修医生活を送ることができています。周り比べて焦ってしまう時もありますが、自分のペースで少しずつ学んでいき、同期と切磋琢磨しながら、今後の医師としての基盤を作っていきたいと思っています。

出身地 霧島市

ト

TOPICS

ピ ッ ク ス



## ○協議会主催の合同説明会を開催しました!!

令和4年5月に第1回オンライン合同説明会を、7月に鹿児島大学医学部鶴陵会館にて対面式臨床研修病院合同説明会を開催しました!

第1回オンライン合同説明会では県内外から53人の医学生の方々が、対面式臨床研修病院合同説明会では44人の医学生の方々がご参加くださいました!皆さま気になる病院に対して、思い思いの質問をされていたようです。

残念ながら予定が合わなかったり、遠方で参加できなかった医学生の皆さまも、まだまだ協議会主催の合同説明会は開催予定です!まずは一つ下のトピックスをチェックしてみてください!



## ○今後もオンライン説明会を開催予定!!

令和5年2月頃にもオンライン合同説明会を開催する予定です!

前回同様、県内の全ての基幹型臨床研修病院が参加し、研修プログラム内容の説明や研修医・指導医への質疑応答等の実施を予定しています。

鹿児島県内の方はもちろん、遠方で直接病院を訪問できない方も、この機会に是非ご参加ください!

オンラインだからこそ、対面では聞きづらい質問ができたり、また、複数の医学生が参加しているからこそ、他の方がどのような視点で病院選びをしているのか分かったりするなど、今後の病院選びにプラスになること間違いなし!!!

詳細な情報や申込受付は、協議会公式Webサイトをご覧ください!

公式WebサイトURL ⇒ <https://kagorinsho.jp/>



## ○県外医学生等出前セミナーについて

当協議会では、県内の研修医や指導医が、県外医学生の住むまちに伺い、県内の最新の研修プログラムについて説明したり、病院見学や、臨床研修のこと、鹿児島での生活についてなど、医学生からの質問についてお答えしたりする「県外医学生等出前セミナー」を開催しています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域によっては訪問することが難しいこともあります。そこで、現在はオンラインシステム「Zoom」を使い、オンラインでの面談にも対応しています!

県外にいながら、研修医や指導医の生の声を直接聞くことができるというのは貴重な機会です。お一人でも、ご友人と一緒にでも大歓迎ですので、興味のある方はぜひ当協議会事務局までご連絡ください。

e-mail : [iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp](mailto:iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp)

TEL : 099-286-2581



**鹿児島県初期臨床研修連絡協議会** (事務局：鹿児島県 暮らし保健福祉部 医師・看護人材課)

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

e-mail [iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp](mailto:iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp)

TEL **099-286-2581** FAX **099-286-5928**